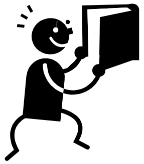
本がいっぱい！



Teen's 2021

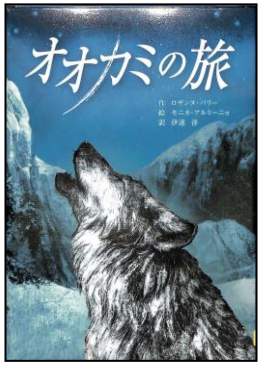
『サード・プレイス』《ＹＦサ》

ささきあり／作　酒井以／絵　フレーベル館

悩める、瑞希（みずき）、ダイ、ぴよっち、亮（りょう）の４人の物語。家でも学校でもない、中高生が自由に過ごせる第３の居場所「サプリガーデン」。様々な悩みを抱える１０代が、そこで出会った色々な世代の人と関わることで気付き、自信を取り戻していく。

『オオカミの旅』《Ｆパ》

ロザンヌ・パリー／作　モニカ・アルミーニョ／絵
伊達淳／訳　あかね書房



よその群れに故郷を奪われ、家族を失ったオオカミのスウィフト。ひどい空腹や喉の渇き、エルクに蹴られてできたケガの痛み、そしてひとりでいるむなしさに何度も苦しむ。スウィフトは厳しい自然の中で、自分の群れを求めてさまよい歩き…。

TOKOROZAWA CITY LIBRARY

所沢市立所沢図書館

『ドーナツの歩道橋』《ＹＦマ》

升井純子／著　ポプラ社

高校に入学して、新しい生活に緊張する麦菜。大好きだったおばあちゃんは、介護が必要になり、去年から一緒に暮らし始めた。友達のこと、家族のことで悩んでいるうち、授業で介護をとりあげられ、家の事情を聞かれた麦菜は思わず、大声を出してしまい…。

『団地のコトリ』《ＹＦヤ》

八束澄子／著　ポプラ社

美月は母親と二人で団地に暮らしている。ある日、下の部屋に住む、一人暮らしのはずの柴田のじいちゃんちから、他のだれかの声がするのに気づく。じいちゃんが入院した後、物音がしないと心配する美月の耳にかすかな歌声が聞こえてきた。一体だれなの…？

『てのひらに未来』《ＹＦク》

工藤純子／作　酒井以／画　くもん出版

中学生の琴葉と同じ家に住んでいる少年、天馬。彼が、父の工場（こうば）に住み込みで働き始めてから、２年が経っていた。ある日、工場の経営が苦しいのに、大口の仕事を父が断ったと聞いた琴葉は、父を問い詰める。それをなだめようとした天馬に、琴葉は「家族でもないくせにっ」と口走ってしまい…。

『本能寺の敵』《Ｆカ》

加部鈴子／作　田中寛崇／画　くもん出版

涼音は、忍びとして育てられた十三歳の少女。明智光秀の屋敷で働きながら、穏やかな日々に幸せを感じていた。ところがある日、光秀の奥方が謎の病に倒れてしまう。何者かに毒を盛られたのだといち早く気づいた涼音は、大切な人達を守るために立ち上がる！

『みつきの雪』《ＦＭ》

眞島めいり／作　牧野千穂／絵　講談社

行人が山村留学生としてやってきたのは、今から７年と２か月前の、小学５年生の冬。別れがつらいから仲良くならない方がいい。そう思っていたわたしに、行人は「ぼくはずっとここにいるよ」と言った。あの時は気づかなかったけど、行人にはそうするしかない事情があったんだ。

『囚（とら）われのアマル』《ＦＳ》

アイシャ・サイード／作　相良倫子／訳　さ・え・ら書房

市場で男に奪われかけたザクロを奪い返した。たったそれだけのことが、アマルの未来を閉ざすことに。その男は地主で、アマルの父に金を貸していたのだ。逆らったアマルは使用人として連れていかれてしまう。自由を奪われたアマルに反撃のチャンスはあるのか？

『ずっと見つめていた』《ＦＭ》

森島いずみ／作　しらこ／絵　偕成社

ぼくは、妹のつぐみの化学物質過敏症のため、家族と山梨の田舎へ引っ越した。仕方ないと分かっているけど、不便な田舎の暮らしになかなかなじめない。友達の直登は、都会に戻ってきて浦和の高校にいっしょに進学しようと言う。ぼくはどうしたいんだろう？

『クラバート』《ＹＦプ》

オトフリート=プロイスラー／作
ヘルベルト=ホルツィング／絵
中村浩三／訳　偕成社

夢の中の声に水車場へと呼ばれたクラバートは、魔法使いの見習いとなった。ところが、毎年、大みそかになると仲間が一人ずつ死んでいく…。クラバートは秘密を解き明かすことができるのか。

『あのころはフリードリヒがいた』《ＹＦリ》

ハンス・ペーター・リヒター／作
上田真而子／訳　岩波書店

ユダヤ人だという理由で父母を殺され、自らも生きながらえることができなかったフリードリヒ。ヒトラー時代のユダヤ人の悲劇的な運命が、ドイツ人の友人の目を通して描かれる。

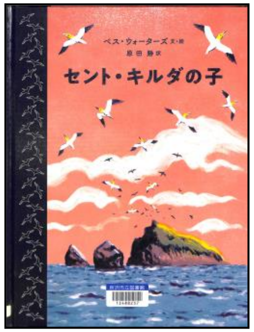
『赤毛証明』《ＹＦミ》

光丘真理／作　くもん出版

生まれつき茶髪のあたしは、今日、生徒手帳に赤いゴム印で大きく「赤毛証明」が押された。なんだか、ふつうじゃないって言われてるみたい…。そもそも、ふつうとか、ふつうじゃないってなんだろう？あたしは「ふつう」について考え始めた。

『セント・キルダの子』《２３》

ベス・ウォーターズ／文・絵　原田勝／訳　岩波書店



世界遺産のセント・キルダ諸島は、「世界のはての島々」とよばれています。そのうち、いちばん大きなヒルダ島で、ノーマン・ジョンは生まれ育ちました。島での幸せな暮らしと、どのようにして島から住人がいなくなったのか、この本で知ることができます。

『世界のいまを伝えたい』《３０》

久保田弘信／著　汐文社

砲弾が飛び交う中東で、難民支援をしながら写真を撮り続ける、久保田弘信。物理学者を夢見た少年は、なぜ戦場カメラマンとなったのか。懸命に生きる難民の姿を通して、戦争の愚かさや悲惨さを世に訴えたい…。そんな思いを持ちながら、彼は世界で活動を続けている。

『もがいて、もがいて、古生物学者!!』《４５》

木村由莉／著　ブックマン社

小学生の時に大恐竜博でもらった小さな化石。手のひらに載せた時、時間を旅しているような感覚に包まれた。映画『ジュラシック・パーク』で古生物学者という存在を知った、恐竜が大好きな少女が、研究者になるという夢を叶えるために、がむしゃらに進んでいく。